

東北紀行(その5)「きそ」に乗船

池田良穂

東北からの帰りには、太平洋フェリーの「きそ」に乗船して名古屋に戻りました。「きそ」は、地中海風の「いしかり」とは違って、内装は南太平洋風にデザインされています。

仙台を出港して1時間50分後、相馬沖で、「いしかり」と反航しました。この日は天気もよく、すばらしい写真が撮れて大満足。沖合には、苫小牧～大洗航路の「さんふらわあしれとこ」が同行しており、少しずつ近づいてきましたが、「さんふらわあしれとこ」の方が少しだけスピードが速く、少しずつ前方に離れていきました。

翌朝8時過ぎには伊勢湾に入りました。ここから名古屋港まではシップウォッチングのビジータイムで、インサイドプロムナードおよびオープンデッキでひたすら行き交う船の観察です。残念ながら、客船やフェリーとは出会いませんでしたが、PCC、RORO船、コンテナ船、タグボート、パイロットボート等、様々な働く船と出会って元気をもらいました。

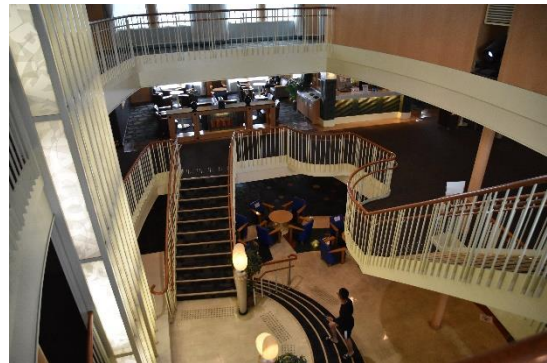
きそ



仙台港に停泊する「きそ」です。



名古屋に乗船する乗用車の列です。



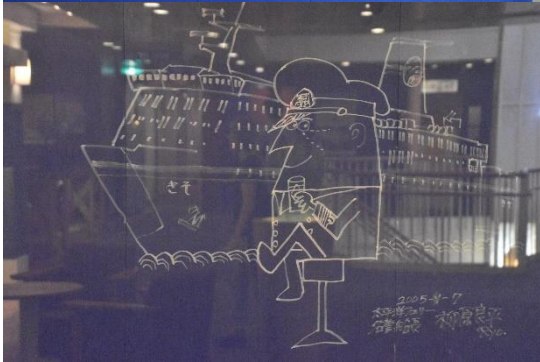
ロビーは3層吹き抜けの階段室になっています。



レストラン「タヒチ」では、昼・夜・朝のバイキングでした。



広々としたラウンジスペースが、快適な船旅にはかかせません。その点、太平洋フェリーの「いしかり」と「きそ」はゆったりとしたラウンジでクルーズが楽しめます。



船内には「良平さん」の絵がありました。



14時45分、相馬沖で「いしかり」と反航しました。



伊勢湾の入り口で出会ったコンテナ船と、下船したパイロットを乗せたパイロットボートです。



伊勢湾の入り口に浮かぶ神島です。



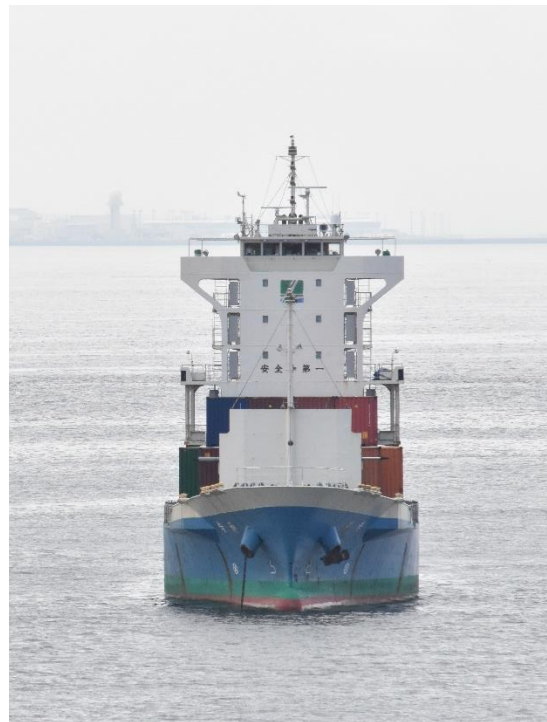
伊勢湾内ではたくさんの小型貨物船と出会いました。



名古屋港を出港する LNG 船です。タグボートが 2 隻、先導していました。



名古屋港港外に停泊していた井本商運の国内フィーダーコンテナ船「神若丸」です。細長く高いブリッジ構造がユニークです。



「神若丸」の顔写真です。



コンテナ埠頭には ONE の「ONE オリnpas」が荷役中でした。



マルエーフェリーの沖縄航路の RORO 船「琉球エクスプレス 5」が荷役中でした。日本各地から沖縄には高速 RORO 船網が張り巡らされつつあります。かつて、沖縄はアジアの中継貿易の要でした。東アジアのハブが中国、韓国の港になって久しいですが、今一度、沖縄を日本のトランジット・ハブとして復活させてほしいものです。交通貨物輸送では、那覇空港がトランジット・ハブ空港として確立しています。



橋をくぐると、いよいよフェリーターミナルへの着岸です。



横の岸壁には浚渫兼油回収船「清龍丸」が停泊していました。